

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990200156		
法人名	株式会社 ハートフルケア		
事業所名	グループホーム ひなた庵		
所在地	栃木県足利市小俣町291-3		
自己評価作成日	平成24年11月25日	評価結果市町村受理日	平成25年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成24年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して3年8ヶ月が経ちます。段々とひなた庵が地域に知られるようになってきています。地域で行う行事(夏祭り等)には積極的に参加するように心掛けています。また、地域福祉ボランティアが主催する高齢者向けの催し(サロン)にも出来るだけ参加するようにしています。また、大きな社会福祉施設にどうしても馴染めない(合わない)要介護者や要支援者が気兼ねなく利用できるように困っている事が解消できる介護保険施設でありたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、足利市西部の幹線道路からやや入った住宅街にあり、静かな中で近隣とのふれあいも多い。高齢者のふれあいサロンに参加したり、地域の祭りに参加し子どもみこしがホームに回ってきたり、ホームのうどんづくりに地域の人々が参加してくれたり、散歩の途中に声をかけられ、畑の野菜をもらったりと地域に溶け込んでいる。管理者と職員は、利用者が心地よく、自分の存在を感じながら、やりたいことが出来るようさりげなく支えていくことを掲げた理念と「理想の職員像」を共有してサービスの提供に取り組んでいる。毎月往診してくれる協力医や地域の認知症疾患医療センターや隣接の小規模多機能型居宅介護施設の看護師などと連携が取れ医療面での支援も充実している。また、防災面では、防災訓練に近所の人々の参加があり地域との協力体制の強化を図っている。夜間は小規模多機能型居宅介護施設の夜勤者との連携を取り合うことにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関右側の掲示板に理念を掲げており、常に実践すよう心掛けている。	ホームの理念は、玄関先に掲げられておりホームを訪れた方の目にもとまる様になっている。職員は理念の共有に務め、利用者のできる力を生かしながら日常生活が送れるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、出来る限り地域の行事等に参加するように心掛けている。また、地域を散歩し、地域の人たちとの交流に取り組んでいる。	自治会に加入し地域の行事・祭事等にも参加している。夏祭りには職員と共に参加し、自由に買い物等も行った。ホームでのうどんづくりにも地域住民の参加があり、認知症への理解・認識を深めてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して推進委員に活動内容を報告し、色々な意見を聞き、サービス向上に取り組んでいる。また、主な施設行事を行う際には地域で誰かボランティアをしていただける方はいないか相談するようにしている。(地域福祉の貢献)	運営推進会議は定期的開催され市町村職員や自治会長・利用者代表等が参加している。事業所からの報告や意見交換を行っている。ホームの案内板は地域住民の協力で実現した。	現在行われている推進会議を生かし、今後は「避難訓練」「ホームの行事」などと合わせて開催するなど、より実りある推進会議の企画・運営を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設での取り組みの相談はもちろん、他の相談事についてもわからない事はいつでも連絡を取っている。	市職員には、ホームの運営推進会議の参加をはじめ、介護保険制度等に関する制度の在り方など様々な形で相談している。また、成年後見制度に関しても積極的に支援できるよう相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どんな入居者についても身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修会を開催し正しい理解に努め、職員一同身体拘束のない日常生活を心がけている。日中玄関の施錠はせず、自由に出入り出来るようになっており、職員の見守りの中で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の入居者に対する虐待は無いように常に目を光らせている。また、入居者同士に対しても喧嘩等が起こりにならない様に取り組んでいる。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の一人が成年後見人制度を利用しており、職員には必要性を話している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者との契約に当たっては、必ず、家族が立ち会い、十分に説明し納得して頂き入所している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の家族が来所等には、職員から入居者の生活の様子を話し、施設に対して「何かありますか」と問いかけるようにしている。	玄関先に「ご意見箱」を設置している。家族からの生の意見を聞くため・日常生活を見てもらうため毎月の支払はホームに持参もらっている。その他、受診・外食等で家族が来訪した時に話を聞くように努めている。家族参加の行事を土曜日に開催し、参加しやすいように配慮するなど家族の意見を聞きだす工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送りや定例職員会議(第4木曜日)等において意見を聞き取り組んでいる。	朝夕の申し送りや毎月の定期職員会議で職員の意見を自由に話し合う事が出来る。日常業務中でも管理者は職員が気軽に話せるような関係づくりをしている。トイレ近くの手すりなども職員意見が反映され設置された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適材適所に職員を配置し、向上心を持って働ける環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外で研修(認知症実践者研修等)が学べるように機会を設けている。また、新しい職員については、必ず、教育する職員を付け、現場を学ばせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不定期ではあるが、足利市の施設職員(管理者、主任等)と交流を持ち職場に生かしている。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホーム入所前に在宅訪問や施設訪問等をし、本人の意思、思い等を聞くように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様に家族からも現在困っている事や不安な事を聞くように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームとはどんな所なのか十分な説明をし納得した上で支援している。また、他利用サービスも含めた話も同時に話すようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日を通して職員と入居者が会話をする機会を持ち、入居者中心の中から信頼関係を築くように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所時には、現在の本人の様子や思いを出来るだけ伝え共感を持ってもらえるように心掛けている。また、受診等の時には家族と一緒に外食が出来、気分転換も図れるように促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の家に行ったりして関係が続くように努めている。	日常的に近隣を散歩している。その折収穫された畑の作物等もいただく等の交流がある。また、家族の協力のもと自宅に宿泊したり自宅の草取りをしたりと馴染みの関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が自然に関われ、トラブルが無い様にテーブルの位置やホール環境を工夫するように努めている。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても前入居者の相談があった場合は家族を含め支援する様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや意向に対してその場その場で考えたり、職員会議等で話し合い個々の入居者の思い、希望を出来るだけ取り入れられる様に取り組んでいる。	自分の思いを伝えられない方に対しても思いを汲みとりながら日常生活の支援がされている。また、日常生活の会話の中から利用者の思いを把握し、食事献立が作成されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に個々の生活歴等を把握し本人に合った過ごし方が出来るようにと努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を通して個々の行動や排泄パターン等を日々観察し心身状態を把握するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く過ごせる様に家族(キーパーソン)や必要な関係者を同席するように努め介護計画を作成している。また、来訪時、本人の現状を報告し対応している。	家族の来訪時等に日常生活の報告を兼ね、話し合っている。意見を聞きながら介護計画の作成がされている。本人の趣味・趣向に合わせボランティアの協力を得て趣味の活動を組み込んだ計画もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録に関しては、抽象的な言葉は記入しないように心掛け、具体的な言葉(本人の言葉含む)で記入し、誰でもが情報共有するように努力している。変化がある場合は朝夕の申し送り等できちんと報告を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の家族関係を考慮しながら一緒に成年後見人制度に携わり柔軟な支援をしている。また、その時々生まれたニーズに対しては迅速に対応する様に努めている。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日、施設周辺の散歩等を通して地域の人たちと交流を持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	てらうち内科小児科医院と協力提携を結んでおり、連携を取りながら日々支援を行っている。また、入居者のかかりつけ医とも良好な関係を築くように努めている。	基本的には家族の協力のもと馴染みのかかりつけ医に通っている。家族や本人の希望があればホームの協力医療機関に定期的に診察を受ける事もできる。医師と情報の共有を図りながら適切な受診支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は配置されていない。しかし、同一敷地内の小規模多機能型居宅介護の看護職員と連携を取りながら日常生活の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の病状により入院の場合は、てらうち内科小児科医院を通して入院先(紹介状持参)を決めたり、情報交換を行いながら早期退院が出来るように努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアを望んでいる家族に対しては、本人、家族、主治医と綿密に相談しながら方針を決める様に努めている。	現在まで看取りの事例はないが、家族・本人の希望がある場合は、本人・家族の意向を尊重し看取りも行っていきたいと考えている。	職員全体でホームの方針を共有出来るようなマニュアルの作成や、家族の同意などが得られやすい環境の整備を進め、本人や家族の望む形を支援できることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不定期ではあるが普通救命講習等を行ったり、救急時の対応が出来る様努めている。また、急変時等の場合、同一敷地内の小規模多機能型居宅介護の職員と連携が出来る様に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合避難訓練(火災通報装置等)を消防署員の協力の基、年2回行っている。2回のうち1度は消防署員が立ち合っています。	年に2回の避難訓練は定期的実施され、そのうち1回は、地域の消防署立会いのもと行われている。更に地域住民に呼びかけ参加がある。近い将来は地域の方と協力し避難訓練を行うと共に地域の避難場所となれるように準備中である。	

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者に対して言葉や行動に十分注意を払うように努めている。	日常生活の様々な場面で利用者のプライバシーや尊厳が損なわれる事がないような支援が実践されている。排泄などについても直接トイレ等の言葉は使わずさりげなく自室やトイレへの誘導等行われている。	広報誌をはじめ様々な場面で使用される個人情報に関して家族・本人から文章での同意をとる等、情報の保護に関する取り組みを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の入居者に対応して各々の考えている事に耳を傾け、自己決定出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人、家族等の思いに合わせ、日々の生活を支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容、美容については、地域の店に行ったり、また、施設で出張サービスが行われるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	必ず、朝昼夕とも職員と一緒に入居者が台所に入り調理している。また、準備や片付けも一緒に行っている。	食事の献立は常に利用者と語らいながら作成されている。また、準備や調理時も入居者が順番に厨房に入る等一緒に食事を楽しむ仕組みがされている。七夕の流しそうめんや正月のおせちなど、節目ごとにも食事を楽しめるように工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の入居者の食事摂取量や水分等については毎日、変化がないか健康チェック表で確認し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い口の中の清潔保持に努めている。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	健康チェック表を活用し、排泄パターンを予測して失禁等をしないように個々の入居者に対して取り組んでいる。	24時間健康チェックしており、水分の補給等に繋げている。水分補給を拒否する利用者には炭酸水も準備し、飲水に繋げている。また、利用者の些細な仕草等を見逃す事なく排泄の誘導を行いながら出来る限り自立に向けた支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな入居者については、排泄パターンを予測して水分を多く摂取したり、また、お腹をさすったりと取り組んでいる。軽い散歩も心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者に対して1回/3日のペースで入浴が出来る様に努めている。また、本人の身体状況に応じて柔軟に支援している。	入浴は基本的に午後3時以降とし、出来る限り日常生活の習慣をくずさないよう支援している。入浴に関わる職員も利用者との相性も考慮に入れながら支援している。季節湯も行い入浴を楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者に応じてソファを活用したりして転寝等を自由に出来るように支援している。就寝については入居者が自分の時間で自由に横になれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬内容は職員全員が理解するように職員会議で周知している。服薬内容が変わった入居者については、新しい処方箋を申し送りノートに挟み理解するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何か日常生活で役割として関わりたい入居者や趣味(編み物、絵画等)をしたい入居者等に対して柔軟に支援するように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、施設周辺の散歩やドライブが出来るように外出支援に努めている。家族等からの外出についてもいつでも外出可能な様に取り組んでいる。	日常的に散歩に行ったり、食材の買い出し等も入居者と共にドライブがてら行う事が普段の生活の中に組み込まれている。家族との外食や外出も希望を把握し、職員が企画を立て定期的実施されている。	

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解のもと個々の入居者のお金を預かり、必要時に使える様努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の状況により対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間には殺風景にならない様に草花(造花含む)を置いたり、季節感漂う飾りをつけたりと工夫するよう努めている。	共用空間は入居者が季節感を味わえるような装飾が施されている。また、暖かな日差しが差し込む場所に畳やソファが設置され各々が自由にくつろげる場所に移動しながら日常生活がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人や何人かで気軽に座って過ごせる量があったり、ソファに何人か座りながら過ごせる空間があったりと入居者が一人になったり、また、入居者同士交流が持てるように場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、特に物(危険な物除く)の制限はなく使いやすい様に本人・家族の意向を取り入れている。	各居室には自分が書いた書道の名前を表札代わりに使用している。居室には自宅から持ち込まれた馴染みの家具や仏壇・写真などが持ち込まれ暖かな馴染みの環境が整備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動、排泄、入浴等を含め、声掛け見守り一部介助をし、自立に向けるよう努めている。		